

訪中の旅

桂町八一四の二
三浦功二



第十回訪中青年の翼に参加し、十三日間ではあったが大きな中国大陸を旅して、今静かにその旅を振り返ると、余りにも中国々民の生活と現在の私達の生活に、その精神的側面での差があることに驚ろかされます。物質的な面では、もちろん日本の現状には及びはしませんが、中国々民の「国興し」に傾ける気力、考え方等の取組み姿勢には、目を見張るものがあったと思います。

深く考えたことはありませんでしたが、今回の訪中の旅を終えて、日本の若者として、自分の周囲の地域社会はもろろん、広く日本の将来への為すべき務めをじっくりと見定め微力ではあっても貢献しなければならぬことを強く意識させられる昨今です。

四千年の長い歴史を持つ中国々民の生活は、物質的には日本のそれよりも約二十年は遅れていると考えられますが、広大な国土の中で十億の国民が、一つの目標に向って、生き生きとして活動していたことには特に感銘しました。

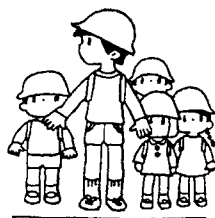
幼児から青年に至るまでの一貫した教育に始って、国中の経済振興への姿は、まさに近代国家建設に邁進する中国のすばらしい現実だと把握しました。

僅かな日程の中での訪中の旅でしたが、私にとっては、大きい収穫のあった旅でした。狭い視野から多少なりとも広くなったと思われる視野です。

終りにこの翼の企画に関係した県当局、市当局の皆様から感謝申しあげ、また次年度の同様事業には進んで多くの青年各位の参加が得られることを希望いたします。

子供会シリーズ (8)

働き蜂の時代



小学校一・二年生の頃の子どもの時を「みそっ漬の時代」というのは、自分が中心で、遊びや友だちとの付き合いが一人前にできないからです。

ところが三・四年生の頃になると、自分の行動や生活を自分で決めることができるようになるのです。ですからこの頃になったら親は子どもにかなり任せるつもりにならないうといけません。行動や生活に親が強く干渉したり、保護が行きすぎたりしますと、自分のことを自分で決められない子になってしまうといえます。国立小児病院の河合洋先生は、「さあ起きなさい。」「さあ寝なさい。」宿題やつかか。「忘れものないか。」テレビ

消しなさい。」ということはこの時期の子に言っただけなら、次に自分中心の行動がなくなることも仲間意識がでてきます。遊びや付き合いが友達との関係を考えて行われます。先生や親に一人だけ特別扱いされたり、褒められたりすると「顔が赤く」なります。それは仲間より目立つことをしたり、ぬげがけをすることが恥ずかしいことだといことがわかるからです。仲間意識とともに道徳的な考えもできてきます。これは善、これは悪といふことがわかってきます。小学校で三年生ぐらいから児童会活動をさせる事は時期として意味があると思います。

そして幼児期からうまく育てられた子は、自分というものを集団の中で、うまくさせるようになります。そういう子は子ども会でも、学校でもよい活動ができるようになります。ちょうどよい働き蜂になります。清水次郎長一家の「大政」「小政」になれるのです。

この時期を大人の目から見ると何の役にもたないように見える子どもですが、一・二年生ににらみもきくし、指導もできるのです。また、五・六年生のつなぎの役にもなるのです。このように中堅になれるのが三・四年生であるといつてよいでしょう。ですからこの時期の子どもたちを子ども会の中堅にしてうまく働けるようにすることが大切だといえます。

市税等の納付は口座振替で

。口座振替制度とは、市税等を金融機関・郵便局・農協があなたに代って預金口座から自動的に振替えて納付してくれる方法です。納税組合員の方が口座振替に加入した場合も、納税奨励金は交付対象となります。

教育相談室
☎(43)1111